

# 誰もが活躍できる社会実現 プロジェクト

平成28年5月31日  
指定都市市長会議

## 1. 本プロジェクトのねらい

### 一億総活躍国民会議

- 若者も高齢者も、女性も男性も、障害や難病のある方々も、一度失敗を経験した人も、みんなが包摂され活躍できる社会、それが一億総活躍社会である。
- そのために、一人ひとりの希望を阻む、あらゆる制約を取り除き、活躍できる環境を整備する。

(平成27年11月26日 一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策)

### 指定都市市長会 政策提言プロジェクト

- 過去2年間のプロジェクトでの「女性」に特化した検討・提言を踏まえつつ、さらに拡大・発展させた提言を目指す。

平成26年度 「女性の社会進出プロジェクト」  
平成27年度 「女性の活躍・働き方改革プロジェクト」

職住近接などの条件を備えた指定都市が率先して取り組むことで、全国へ拡大していくような、  
**「誰もが活躍できる社会を実現」するための政策提言**  
を検討

## 2. 検討の進め方

プロジェクト参加市に具体的な検討テーマについての意見や各市の主な取組・課題等について事前照会した結果、下記のとおり検討テーマを設定する。

### 検討テーマ

## 「ワーク・ライフ・バランスの推進」について

### 提言項目(案)作成の方向性

#### 「誰もが活躍できる社会」実現に向けた2本の柱

##### ① 制度改革 新たな「国民の祝日」の創設

例：「ワーク・ライフ・バランスの日」など

- ・条例で地域版「国民(市民)の祝日」が制定できるよう所要の法改正を行う

##### ② 意識改革 国、地方公共団体、民間企業等が一体となった取組

例：「ゆう活」の推進

「ゆう活」—明るい時間が長い夏の間は、朝早くから働き始め、夕方には家族などと過ごせるよう、夏の生活スタイルを変革する。(厚生労働省)

- ・「朝方勤務」や「フレックスタイム制」等の推進

例：ワーク・ライフ・バランス専門部署の設置

- ・地方公共団体では雇用、子育て、男女共同参画、人事等、多くの部署が関係している。

調査・研究を行い、提言内容を整理する。